

自殺対策の機動的推進のためのワーキングチーム

第1回議事録

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）

自殺対策担当

第1回 自殺対策の機動的推進のためのワーキングチーム 議事次第

日時：平成24年9月6日（木）16時30分～16時49分

場所：中央合同庁舎4号館2階共用第3特別会議室

1. 開 会

2. 議 事

平成24年度自殺予防週間について

3. 閉 会

○中川内閣府特命担当大臣 ただいまから、第1回「自殺対策の機動的推進のためのワーキングチーム」を開催いたします。

このワーキングチームは、本日付で持ち回り開催された「自殺総合対策会議」において決定されたものであります。

本ワーキングチームは、我が国における自殺をめぐる厳しい状況を踏まえて、必要な対策の機動的な実践等を目的として設置されたものであり、今般の大綱の見直しも踏まえて、取組をより一層効果的に推進するために、関係省庁に幅広く構成員として参加をいただくこととしております。

自殺を防ぐためには、関連分野の関係機関・団体またはそのネットワークとの連携体制を確立して、より多くの関係者による包括的な生きる支援を展開していくことが重要であります。このため、地方自治体において、地域自殺対策緊急強化基金を戦略的に活用してもらうとともに、今後は自治体自らの取組をさらに進めてもらう必要があつて、また、国においても、新たな大綱に基づいて、各府省庁が具体的に何を行っていくかということを整理・検討していただく必要があります。

このため、各省庁と積極的な意見交換をしていきたいと考えておりますので、各構成員におかれましても御協力をいただきたいと思います。

それでは、本日の議題に移りたいと思います。

自殺予防週間の概要及び内閣府の取組について、園田政務官から説明をお願いいたします。

○園田内閣府大臣政務官 それでは、まず私から、自殺予防週間につきまして御説明をさせていただきます。資料2をご覧ください。

来週の月曜日、9月10日～16日まで自殺予防週間となっております。今回の週間におきましては、自殺や多重債務、うつ病等の自殺関連事象に関する正しい情報や知識の啓発とあわせまして、悩みを抱えた人が必要な支援を受けられるようにということで、相談事業を始めとします支援策を重点的に実施していくこととしています。

続いて、もう一枚ございますが、資料3をご覧ください。

「全国一斉自殺予防相談」を実施いたします。具体的には、全国で様々な相談事業等を実施していただくとともに、悩みを抱えた人が確実に、また簡便に支援策の情報にワンストップで辿り着けるよう、相談事業等の日程、会場等の情報であるとか、その他様々な関連事業の情報につきまして、内閣府で開設いたします週間の「特設サイト」上に集約して提供いたします。

この支援情報検索サイトは、若年層がアクセスしやすいようにということで、パソコンだけではなく、携帯電話であるとかスマートフォンにも対応する予定でございます。また、例えば地域や相談の種別などで簡単に絞り込みができるよう、検索機能も備えているところでございます。

さらに昨年度の週間・月間に引き続きまして、「全国一斉こころの健康相談統一ダイヤル」

を全都道府県・政令指定都市の参加を得て実施します。

また、もう一枚あると思うのですが、週間の中におけるポスターでございますが、この週間用のポスターも作成しているところでございますが、全国の自治体であるとか協賛団体等に配布させていただき、掲示の御協力をいただくということになっています。

私からの説明は以上でございます。

○中川内閣府特命担当大臣 ありがとうございます。

続きまして、発言のある省庁からそれぞれの取組について説明をいただきたいと思えます。

事前に登録いただいているのですが、まずは金融庁の取組について、中塚副大臣からお願いします。

○中塚内閣府副大臣 ありがとうございます。

資料6、一番最後に付けてあるのをごらんください。金融庁におきましては、多重債務者対策の一環といたしまして、これまで各地方財務局や都道府県・市区町村の多重債務相談窓口の整備・充実に取り組んでまいりました。

多重債務相談窓口には、色々な方が相談に来られるわけではありますが、そういった方は抱えている問題も様々でありまして、借金以外の問題も含めて総合的に解決が図られるように、関係部門との連携を強化するというように努めております。特に、多重債務の方、多額の債務を負っている相談者の中には、心の問題を抱えていらっしゃる方も少なくございませんので、必要に応じてということではありますが、多重債務の相談の窓口から、都道府県・市区町村の自殺関連の相談窓口へ誘導を行う、あるいはその逆、自殺関連の相談窓口から相談者の紹介を受けるとか、そういった有機的な対応にこれからも努めていきたいと思っております。

このことは今般の自殺予防週間実施要綱にも盛り込まれておるわけではありますが、政府の多重債務者対策本部ですけれども、ここで毎年9～12月、資金繰りが気になる時期ということでもありますけれども、多重債務者相談強化キャンペーンというのを実施いたしております、特に強調して取り組んでおるということでもあります。

もうこの9月1日から開始されておりますが、金融庁といたしましても借金の問題に苦しむ方々が、これを原因として自ら命を絶たれることのないように、相談体制を一層強化していきたいと思っておりますので、関係各省庁の御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

○中川内閣府特命担当大臣 ありがとうございます。

続いて、文部科学省の取組について高井副大臣からお願いします。

○高井文部科学副大臣 ありがとうございます。

今回の自殺予防週間では、特に児童生徒の自殺予防にかんがみて、内閣府の今御紹介のあった通知やポスターについて、各都道府県・指定都市の教育委員会などを通じて、各学校に対して周知を図りたいと考えております。

加えて、文部科学省職員、また PTA 団体、青少年団体などの民間団体へも周知を徹底して行おうと思っています。今朝の報道でも、札幌市でも中学 1 年生が自殺したというニュースがございました。皆さんも御経験あるかもしれませんが、夏休みの終了の後の 9 月、学校に行くという段階にあつては、学校生活に悩みを抱える児童の心に一番影響がある時期、特に中二の夏というのは魔の中二と言われるぐらい、本当に心身ともに未熟で、子供から大人に変わるときの中で、いろいろな心境の変化、悩みを抱えたりしながら学校に行けなくなるケースもあつたりするものですから、場合によって深刻なケースに至ることが想定されますので、教職員など関係者、学校に関わる全ての大人が協力して、この児童生徒の様子にできるだけ目を光らせて、十分な注意を払って関心を持って、子供たちの生活実態や気持ちの揺らぎなどについて十分に配慮した適切な対応を図るように注意喚起の通知を 9 月 4 日に発出したところであります。

改めてこの週間にかんがみて、できるだけいい大人に相談してもらえるように、できるだけ子供に対して色々な開かれた窓口があるということを広く知らしめて、少しでも相談して楽になって、そういうことを思いとどまってもらえるように、またいじめ対応についてもしっかり取り組んでまいりたいと思っておりますので、是非今後もよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○中川内閣府特命担当大臣 ありがとうございます。

事前に登録いただいたのは以上なのですが、ほかにそれぞれ課題として持つておられる思いがあると思ひますので、どうぞ。

○大島総務副大臣 我が政権になってから、毎年 1,000 人ずつ自殺者は減つていて、今年の 1～6 月のまま推移をすると、15 年ぶりに 3 万人を割り込むことが想定されています。9 月あるいは 3 月が自殺される方の非常に多い月でして、やはりこれまで内閣府を中心に取り組んでいただいた結果、各地方自治体でも 9 月になると自殺予防週間ということがもう用意、心の準備をしていただいて、非常に取組が深くなつていけるかなと思ひます。

党ではずっと柳澤さん中心に、自殺対策を激しくという表現はよくないのですが、いつも気を抜かないようにしていただいて、これまで警察からはずっと自殺関係の統計資料を瞬時に出していただいて、こうやって一丸となつての運動が多く命を救つていただいていると思ひますので、総務省としてもしっかりやっていきたいと思ひます。

決意を述べさせていただきます。

○中川内閣府特命担当大臣 ありがとうございます。

ほかには、この際、柳澤副大臣いかがですか。お名前が出ましたが。

○柳澤経済産業副大臣 大臣のところまで押しかけたり、園田政務官には大変お世話になりました。本当に今回は踏み込んだ大綱になりましたし、自治体及びあらゆる組織の現場に下りていくという体制が一步進んだと大変うれしく思ひます。

今、大島副大臣からありましたように、このまま行けば本当に 15 年ぶりに 3 万人を割り

込む。この9月からの取組を皆さんと御協力いただいて、是非実現をさせていただきたいと思っています。

実は9月10日、これはWHOの世界自殺予防デーで、毎年、東京でライフリンクの清水さんが中心にシンポジウムをやってきましたのですが、去年は私も行って、震災を受けて盛岡でやりました。今年は今回の大綱を踏まえて北海道、秋田、東京、京都、福岡の5か所でネットもつなぎながらやる。東京には園田政務官に出させていただいて、秋田には厚労の政務官の津田弥太郎さんに行ってください、私が京都に行くという体制でキックオフも、民間のベースでも自治体も入ってもらってスタートしたいと思っておりますので、また一段の御協力をいただければと思っております。

今回は大変皆さんに御協力いただきましてありがとうございました。

○中川内閣府特命担当大臣 逆に私の方からもお礼を申し上げたいです。本当にありがとうございました。

本多補佐官も、現場まで行っていただいているいろいろ頑張ってもらったので、この際いかがですか。

○本多内閣総理大臣補佐官 私も補佐官になってからこの問題を携わらせていただき、東京と大阪で開催された、各県から1つずつNPOに来ていただくヒアリングで、本当に色々な形で取り組まれている団体の話を聞かせていただいた。また、大阪に行ったときには、その足で非常に自殺の多発地域である和歌山県の白浜にも行かせていただいた。実は残念なことに私が訪れた朝もお二人の方が亡くなられた現場を見るという残念なこともあったのですけれども、本当にそこで夕方からその辺を歩いている方に声をかけるとか、地道な活動をしている牧師さんの活動に、我々がつくった基金がしっかりと有効に使われている形を生で見させていただきました。大島副大臣のおっしゃったとおり、本当に数字で出てきたい成果なので、各省で連携して、この流れをきちんと進めていければと思いますので、引き続き各省の皆さんにも御協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

ありがとうございます。

○中川内閣府特命担当大臣 ほかによろしいですか。

それでは、そろそろまとめていきたいと思うのですけれども、今日の会議をスタートにしてよろしくお願ひを申し上げたいと思ひます。今回は自殺相談週間や相談強化キャンペーンをやっていこうということでテーマに取り上げましたけれども、これから具体的な政策について御議論いただきたいと思ひます。

私も予算要求の中で大事にしていかなければいけないと思ひますのは、基金化したのをさらに継続をして積み上げる努力があると思ひます。もう一つ、厚生労働省の方でサポートセンター、トータルなワンストップセンターを構想していただひいて、それを新規で立ち上げていただひいています。これは色々な問題に対応していくということであり、最終的には自殺に結びついていくような色々な要因があるのを、それこそゲートキーパーや電話相談等々を含めて、サポートセンターに話を持ってきて、そこから専門家につなぐと

同時に寄り添って行って問題を解決していくという手法でやろうとしておられるわけですが、これを我々はしっかりサポートして、応援して中心にしていくということが大事とっております。

また、DVとか性犯罪被害者のワンストップ相談センターとか、予算がついていないものがあるのをどう整理していくか、あるいはどう立ち上げていくかということと、ワンストップセンターの専門家のネットワークをその地域、地域で構築していく構想とは、整理して皆さんと相談しながら対応したいと思っています。そこでさらに資金が生きてくるだろうと思います。そのような問題意識も持っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

先ほどの話は私の思いとして、省庁の皆さんにも同じように聞いていただいて、よろしくお願ひしたいと思ひます。

なお、実は我々のそれぞれの役所の中からも自殺が出ております。国家公務員についても、心の健康づくりなど心身の健康保持増進は重要でありまして、政府職員に対し自殺の問題について啓発することが必要であると考えておりますので、それぞれの省庁におかれましても御協力がいただきたいということ、もう一回、そこを点検していただきながら、しっかり足元から固めていくようによろしくお願ひをいたします。

以上をもちまして、本日のワーキングチームを終了したいと思ひます。

ありがとうございました。